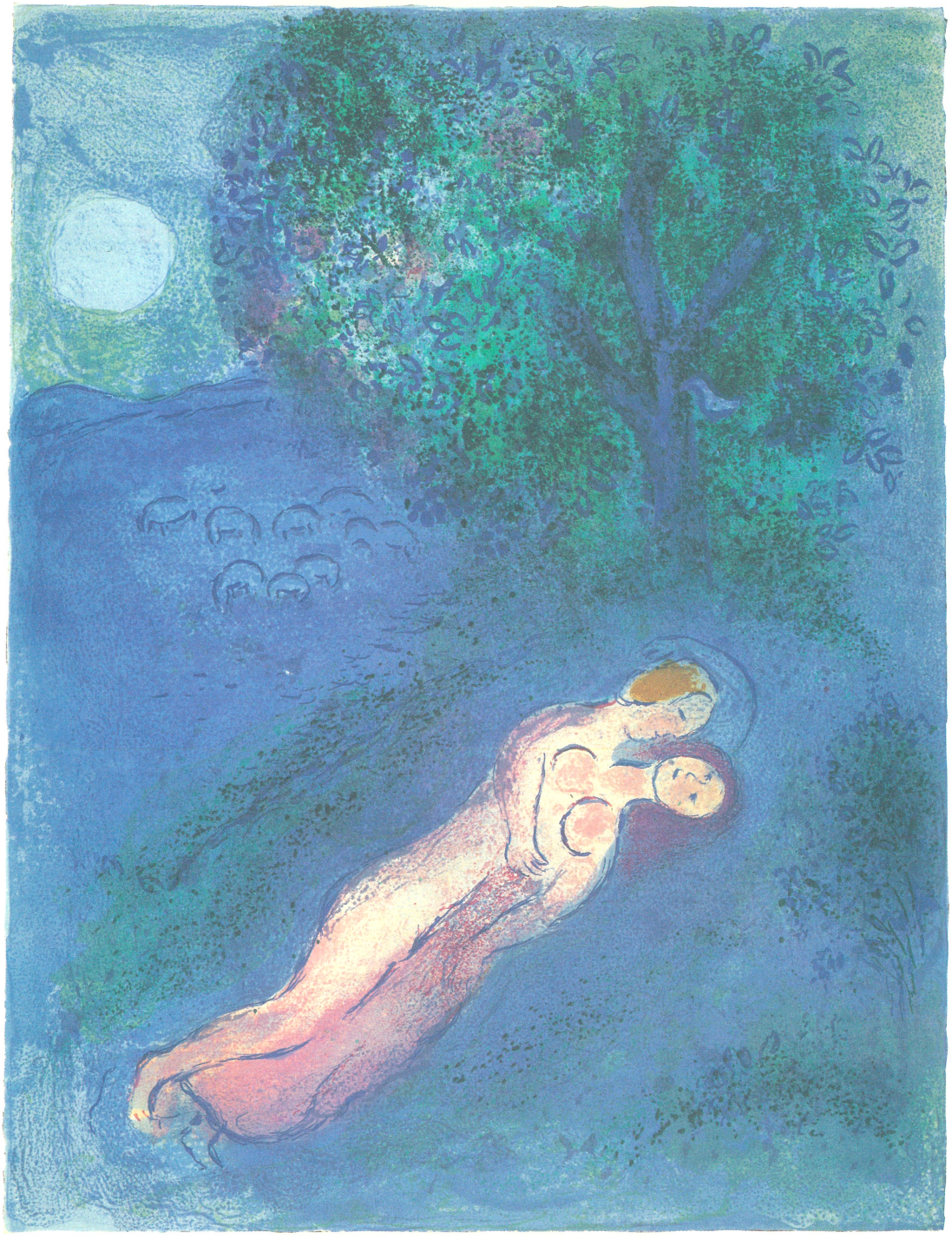
シャガール名作版画展

Chagall

愛の讃歌

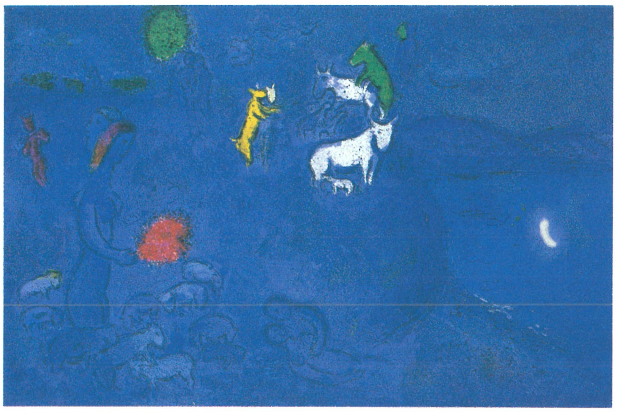


「ダフニスとクロエー」《フィレータースの教え》

1991年4月30日(火)——5月12日(日)

刈谷市美術館　午前9時—午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日　5月7日(火)　入場無料

主催/刈谷市・刈谷市教育委員会・中日新聞社　後援/愛知県教育委員会　協賛/NTT



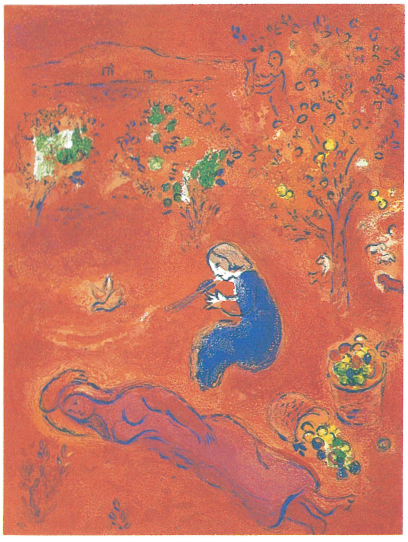
「ダフニスとクロエー」《春》

「ダフニスとクロエー」《果樹園》

シャガール名作版画展——愛の讃歌

マルク・シャガール(1887−1985)は、ロシアの古都ヴィテブスクの囲いによって制限された居留地にユダヤ人の子として生まれましたが、地中海を見下ろす南フランスのもっとも美しい村のひとつであるサン・ポール・ド・ヴァンスにおいて長命の生涯を終えるまで、不思議な運命によって世界を転々としました。しかしながら、数奇なものといっても過言ではない生活の中で、彼はその経験を美しい芸術へと転化させる才能に恵まれた幸福な人であったばかりでなく、美しいものの創造を悦びとして生をまっとうすることのできた人生の達人でもありました。民族の哀愁をたたえたロシア時代の風俗詩。エッフェル塔の上空に花束を抱いた恋人たちが浮かんでいる、パリ時代の夢のような恋のシャンソン。民族の故郷であるオリエントの太古に帰還した悲歌。緑の田園に夢を馳せた神話。そして、それらのすべてが、あの祭の日の祝宴のごとくひとつに集められて晴れ晴れと昇華しているサーカスの祝祭歌。このような、実に多彩な芸術世界を生みだしたのでした。なぜ彼の絵画が世界中の人々にこれほどに好まれるのかと聞かれたシャガールは、あの遠慮深げな身ぶりを見せながら、おそらく私の絵画は、愛のメッセージを伝えようとしているからだと答えました。愛の讃歌こそはたしかに、だれの心にも伝わってゆく美しいメッセージです。

この展覧会では、羊飼いの少年ダフニスと美しい乙女クロエーとの牧歌的な恋を描いた「ダフニスとクロエー」のシリーズをはじめ、音楽、色彩、人、動物、花束が自由自在に宙を駆けめぐるあの有名な祝祭画「サーカス」シリーズ、荘重な「神々の大地で」シリーズ、軽妙艶治な「アラビアン・ナイト」シリーズなど、シャガールの代表的な版画100点を展示するものです。愛のメッセージがさらに広く伝わることとなるでしょう。　　木島俊介(美術評論家)



「ダフニスとクロエー」《真昼 夏》

「神々の大地で」《サッフォー》

「サーカス」

Chagall

●刈谷市美術館　刈谷市住吉町4丁目5番地☎(0566)23-1636　JR・名鉄「刈谷駅」下車、南口から徒歩7分